

月刊・南ア・ニュース (2009年10月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●閣僚の公費乱用

8日、ニヤンダ通信大臣やヌジマンデ高等教育・訓練大臣を始めとする各閣僚の高額な公用車(1,000万円以上)購入や、ムテトワ警察大臣の豪華ホテル長期滞在(17泊、一泊30万円以上)が野党DAの調査により発覚した。閣僚及び自治体首相の新車購入に費やされた金額は全部で40.5千万ランド(4.5億円以上)にも上り、DAを始め各野党から、公費乱用との非難の声が挙がっている。

●国内暴動再発と政府対応

13日、自治体の行政サービス遅延に不満を抱いた住民暴動が、ムプマランガ州のタウンシップやヨハネスブルク近郊のディープロットで再発した。警察は暴動を鎮圧するために、催涙ガスやゴム弾を使用し、20人以上の負傷者を出した。住民は無能な地区議員や市長の退陣を要求。これを受けて視察を行ったANCの全国執行委員会メンバーの報告により、ムプマランガ当該地区では市長等のリコールが決定された。また、一連のサービス・デリバリーの遅延に対する不満を解消するため、20日、ズマ大統領はモトランテ副大統領はじめ多くの閣僚とともに、全国の283行政区の市長と会合を持ち、地方行政を強化するよう訴えた。

●ジャンセン UFS 新学長、学生の退学処分取り消しを命ず

フリーステート大学(UFS)で学内の清掃スタッフに関する侮辱的、人種差別的なビデオ撮影をしたことで、学生四人が退学や停学となり、裁判になっていたが、19日、この裁判中にジャンセン UFS 新学長は、これら処分を取り消し、学生らの学業再開を許した。しかしヌジマンデ高等教育・訓練大臣を始め各野党からは、人種差別を許すべきではないと、処分取り消しに対し鋭い批判の声が挙がった。

●イブラヒム賞、2009年該当者なし

スーダン出身の億万長者、モ・イブラヒムは、アフリカ大陸の中で望ましい統治をしたアフリカの指導者に贈られるイブラヒム賞に、

本年度の該当者がいないことを発表した。この賞は、国民に民主的に選ばれ、過去3年のうちに要職を去ったリーダーに贈られるものであり、その功績を讃えて10年に亘って500万ドル或いは年間20万ドルが供与される。ムベキ元大統領も候補に挙がっていたが、残念ながら受賞には至らなかった。

●ネチテンゼ大統領府政策ユニット長の辞意表明

20日、マンデラ大統領時代から、南ア大統領府にて政策ユニット長兼広報庁長官を勤め、与党の重鎮でもあるネチテンゼ氏が辞意を表明。これを受けて、ズマ大統領はこれまでの同人の功績を称える談話を発表した。突然の同氏の辞任の背景についてメディア等では憶測を読んだが、メール&ガーディアン紙のインタビューに応えたネチテンゼ氏は、今回の辞任は大統領府大臣2名の就任で、自らが行政府で果たすべき役目が終了したと感じたからであり、南ア労働組合(COSATU)や南ア共産党(SACP)の一部からネチテンゼ氏の政策に対する厳しい批判があったためではない旨を述べている。

2. 外政関連

●ズマ大統領のブラジル公式訪問

9日及び10日、ズマ大統領はブラジルを公式訪問。サン・パウロではビジネスフォーラムに参加し、ブラジリアでルーラ大統領と会談。延期されていた第五回二国間会談を南アが主催することに同意した。ビジネスフォーラムには南ア側から50の企業代表が参加し、ズマ大統領にはヌコアナ=マシャバネ国際関係・協力大臣に加え、ストフィーレ・スポーツ・レクリエーション大臣とデーヴィス貿易・産業大臣が同行した。大統領等は貿易・投資促進のためのMoUと、2009年から2011年にかけてスポーツの協力に関するMoUに署名した。またズマ大統領は、ルーラ大統領に対して2010年ワールドカップ直前、もしくは直後のタイミングで訪問するよう、招待した。

●ゴールドストーン判事の報告書を評価

エブラヒム国際関係・協力副大臣は、ゴールドストーン判事が国連の調査団の長として発表した2008年12月のイスラエルの攻撃に関する報告書と、それに対する批判に関する声明を発表。報告書を吟味した上で、その内容を無条件にエンドースすることにした発表した。また、ゴールドストーン判事のこれまでの功績を称え、同氏を南ア政府が信用していることを改めて表明した。

● ヌコアナ＝マシヤバネ大臣の大学講演

16日及び20日、リンポポ大学及びローズ大学で外交政策に関する講演をおこなった。この中で同大臣は、南ア国内の必要性に基づく国益推進の重要性に触れる、安保理改革を進め、南アは安保理の常任カテゴリーの一員であるべきとする等、前政権と比べ、ズマ外交における外交スタイルの変化を仄めかすものであった。

● 南ア・ロシア政府間委員会 (ITEC)

27日、南ア・ロシア間の第8回貿易経済協力政府間委員会が開催され、ヌコアナ＝マシヤバネ大臣がロシアのトルトネフ天然資源相と共同議長を務めた。委員会は、司法、貿易投資、鉱物エネルギー、運輸、保健教育などの社会部門、農業、水資源、科学技術などのテクニカルコミティで構成され、これまでの進展状況を報告。2010年に予定されているズマ大統領のロシア公式訪問に先立って、合意実施を促進することの重要性を確認した。

● 南ア・コンゴ (民) 二国間委員会

30日、ズマ大統領はカビラ大統領と共に南ア・コンゴ (民) 二国間委員会の共同議長を務めた。同委員会は、アフリカ・アジェンダの定着と二国関係の強化の枠組みの中で行われ、南アは、アフリカに平和と安定、持続可能な成長と開発もたらすアフリカ・ルネッサンスのヴィジョンから、コンゴ (民) を支援してきた。特に、紛争後、再建を視野に入れた支援について詳細に話し合われた。南ア側は、再建開発プログラムについては、AU と NEPAD のプログラムとも提携されることを重要視しており、コンゴ (民) が軍の統合、軍縮、特に地方における市民生活の立て直しを推進することを支援する。

● モトランテ副大統領のスーダン訪問

21日から24日にかけて、モトランテ副大統領はチャバネ大統領府大臣等とともにスーダンを実務訪問し、2010年の選挙と国民投票、スーダンの包括的和平合意にかかる実施状況などについて南部スーダン政府と話し合いをもった。南アは南部スーダンのキャパビルはじめ、様々な支援を行っており、AU でもスーダン問題の議長を務める。今回の実務訪問でモトランテ副大統領は ANC の副代表として、スーダン政党 SPLM と民主主義の働きの強化を目的にと協力し、キャパシティ・ビルディングなどを行う旨を盛り込んだ MoU に署名した。

● 南ア・ナイジェリア二国間委員会 10周年

29日、モトランテ副大統領はナイジェリアのジョナサン副大統領と二国間委員会 10周年を祝いつつ会談を行った。ジョナサン副大統領はシスル下院議長主催の夕食会に出席し、ズマ大統領にも表敬。10周年記念となる今年の二国間委員会は、26日から29日までは南アで、11月12日から14日にかけてナイジェリアと2回行われるのみならず、貿易投資促進、人物交流促進を目的にスポーツや市民社会によるセミナー、ファッションウィーク、ユースフォーラム等様々な関連イベントが企画されている。1999年当時やナイジェリアに4社しか無かった南ア企業が、今は100を超えていること等を例にとり、アフリカの二国間の関係は著しく発展している旨が発表されている。

● 汎アフリカ議会 (PAP) 開会

26日、ズマ大統領は汎アフリカ議会開会式に出席し、加盟国に PAP 設立にかかる議定書の批准を呼びかけ、アフリカにおける民主主義の促進努力を促す旨のスピーチを行った。開会式には、モウサ新議長はじめ、ジャン・ピン AU 委員長も出席。PAP は、設立5周年を迎え、現在の諮問的で影響力の限られた機関から加盟国に対して何らかの拘束力を持つ機関へと変革する可能性を模索している。なお、モンゲラ前議長は、PAP 議長就任及び離任にあたり、タンザニアの自宅から家具を輸送する費用を不当に多く PAP 予算から捻出させたとして、関係者から非難されている。

●アフリカ海運憲章採択

15日から16日、ダーバンにおいてAU加盟国36国の運輸大臣及びアフリカ地域国際機関の関係者が参加して、アフリカの海運にかかる会議が開催され、アフリカ海運憲章が採択された。採択にあたり運輸大臣等は、各国の憲章の批准と内容の遂行をモニターするためのメカニズムの設置をAU委員会に呼びかけた。参加者は他にも海洋環境の保護や、海洋の航行の安全を確保するための決議を採択し、ソマリアの海賊問題について懸念を表明した。

3. 経済関連

●アフリカとBRICs諸国の貿易

スタンダード銀行はアフリカとブラジル・ロシア・インド・中国（BRICs諸国）との貿易額が、昨年の1660億ドルから2030年までに4兆ドルに達するという試算を発表した。これはBRICs諸国の急速な経済成長とBRICs諸国とアフリカの相互貿易の成長による。同4兆ドルはBRICs諸国と全世界との総貿易額の10%、アフリカと全世界との総貿易額の45%に相当する。現在、アフリカからの輸出の58%を中国が占めている。

●電気料金

エスコムがこの先3年間に渡り45%ずつ電気料金を値上げするという申請が承認された場合、経済成長とインフレに悪影響を及ぼすと専門家は見ている。同値上げにより、この先3年間、毎年インフレ率が0.4%ずつ上昇することが予測され、インフレターゲットの6%を上回り続けることとなる。このため中銀は金利を高めに維持する必要があり、それによってランド高と輸出の停滞を引き起こすこととなる。

●インフレ

インフレは8月の前年同月比6.4%から9月に前年同月比6.1%へと下がったが、前月比では0.4%上昇した。ランド・マーチャント銀行は10月に前年同月比で5.9%に、11月に前年同月比で5.7%に下がると予測している。

●雇用

10月に南ア統計局の『四半期労働力調査』は、今年の第1～3四半期にかけて南アの雇用はほぼ100万人分喪失したことを公表した。公式失業率は第2四半期の23.6%から第3四

半期に24.5%に拡大し、非求職活動者を含む広義の失業率も32.5%から34.4%に増加した。

●景況感

南アフリカ商工会（SACCI）のビジネス自信度指数（BCI）は9月に、ここ10カ月で最高の85.5ポイントを付けた。国内経済は第4四半期に縮小が留まると予測される。BCIは06年12月の103.5ポイントのピークから今年3月に78.9ポイントにまで落ち込んでいた。

●自動車産業

現地自動車製造業者は貿易産業省に対し、「自動車生産開発プログラム（APDP: Automotive Production and Development Programme）」によるインセンティブを受けるには、年間5万台の生産量が必要であるという条件に関し、柔軟性を持たせるよう要求している。現在の経済状況に鑑みると、フォルクスワーゲンとトヨタのみがこの条件を達成できる。

4. 広報・文化

●プレトリアに巨大サッカーボール出現

1日、プレトリア市のテレコム・タワー（正式名称：Lukasrand Tower）にファイバーグラスと鉄鋼でできた重さ50トン、直径24メートルの巨大サッカーボールが設置された。南ア・ワールドカップ開催に向け、テレコム社（南ア電話会社）が設置したもので、世界一巨大な装飾用サッカーボールとしてギネスブックにも掲載された。

●南アサッカー協会、サンタナ代表監督の解任を決定

19日、南アフリカのサッカー協会はジョエル・サンタナ代表監督の解任を発表した。本年6月に開催されたコンフェデレーションズ・カップでは南ア代表をベスト4に導いた同監督だが、それ以降に行われた国際親善試合9試合で南ア代表は8敗しており去就が取りだされていた。23日、同協会は後任として、カルロス・アルベルト・パレイラ前監督を復帰させることを決定。同氏は1994年のワールドカップ・アメリカ大会で、ブラジルを優勝に導いた実績を有する。

●ホッケー・サクラジャパンの活躍

11日から8日間に亘り、ケープタウンにてホッケーの女子チャンピオンズチャレンジが開催され、日本チームも参加。地元南アフリ

カはもちろんのこと、スペイン、ニュージーランドといった世界の強豪チームと堂々と渡り合い、最終的に 3 位の成績を収めた。ケープタウンでは、選手達の熱戦に在留邦人達の応援の声も熱かった。

5. 警備・治安

●プレトリアにおける犬毒殺事件

ヨハネスブルグ・リバーリー地区において、ある夕方強盗の仕業と思われるが 8 匹の犬が毒殺された。また 21 日には、クリビア・アベニューの住民が数匹の犬が路上で毒殺されているのを発見した。同アベニューではここ 3 週間で 30 匹の犬が殺されており、強盗らが住民宅に近付くために犬を殺していると住民は考えている。昨年も 10 匹の犬が毒殺されたことがあり、その後、同地区の強盗件数が増加した。

●リバーリー黒人居住区騒乱

22 日、サッカー・シティ・スタジアムから数キロに位置するリバーリー地区において、住民が行政サービスの遅延や住環境の改善を求めてデモを実施し、これを制圧しようとした警察部隊と衝突した。警察部隊は、暴徒化して投石をする群衆に向けてゴム弾を発砲し、12 人を逮捕した。少なくとも住民 3 人が病院に運ばれた。群衆は燃えたタイヤや石で道路を封鎖し、一部の群衆は同地区を通過する電車に向けても投石した。

●プレトリアにおける強盗事件

22 日、メンリン・リテール・パークにおいて、銀行と宝石店が襲撃される武装強盗事件が発生した。ここ 1 週間で 3 件のショッピングセンターに対する武装強盗が発生している。少なくとも 12 人組の強盗が AK47 ライフルやけん銃で武装し、駆けつけた警察官と撃ち合いになった。警備員が肩を打たれて病院に搬送された。警察は強盗 7 名を逮捕し、けん銃などを押収した。クリスマス・シーズンが迫る中、ショッピングセンターにおける武装強盗事件の増加が懸念されている。

(了)